

算数科教育 実技・理論研修会 終了報告

テーマ	算数科における言語活動の充実～算数的表現の指導を通じて～	
日時	平成28年8月26日(金)	
会場	北広島市立東部小学校	
講師	大野 桂 氏 (筑波大学附属小学校教諭)	
参加者	約80名	
研修会 の 様子		<p>東部小大山学級の6年生と「場合の数」の学習をしました。到着後すぐに授業を行うという大変な状況でしたが、最初のゲームからしっかりと本時の内容につながる伏線がありました。コインゲームの秘密をさぐる学習内容でしたが、最初から難しい問題ではなく、コインを1回落とした問題からスタートすることで、子どもたちは自然に2回投げた時に素朴概念と結果のギャップに気づき、自分で問いを見つけることができました。</p>
		<p>いきなりやってみようということではなく、スモールステップをふみながら、全員が同じ目標をもったところで自力解決に入っていました。全員の子が必ず取り組める方法の大切さがわかりました。また、わからない子の立場に立った発問により、子どもたちが自分たちで解決していく様子がとても見られました。自然に表や図にしていくことの必然性を子どもたちは感じる事ができた授業でした。</p>
	 	<p>授業後の講演では、「すべての子どもの学力に 応じる算数授業の作り方」というテーマについて話していただきました。大野先生の過去の経験から、問題解決型学習の課題である一部の子だけが答え収束していくのではなく、全員が目標をもって問題解決していくことを目指した『ビルドアップ型の問題解決学習』を詳しく説明していただきました。問題解決型学習を登山にたとえ、自力解決時に思考のスタートラインをそろえることで、全員が頂上に登れるということ、具体例を出しながら話していただき、考えさせられることが多い講演でした。また、わからない子の立場で発問する重要性もたくさん教えていただきました。参加者にとっても改めて問題解決型学習を考えるととてもよい機会になりました。</p>

